

平成28年10～12月期結果(確報)の概要

I 今期の概況

1 今期の個人企業（個人経営の事業所）の業況判断D I

① 今期の業況判断

今期（平成28年10～12月期）の業況判断D Iは (-)61.3 で、前期（平成28年7～9月期）(-63.4)に比べ、2.1ポイントの改善。

② 来期の見通し

来期（平成29年1～3月期）の業況見通しD Iは (-)61.8 で、今期の業況判断(-61.3)に比べ、0.5ポイントの悪化の見通し。

図1 業況判断D Iの推移 — 調査産業計 —

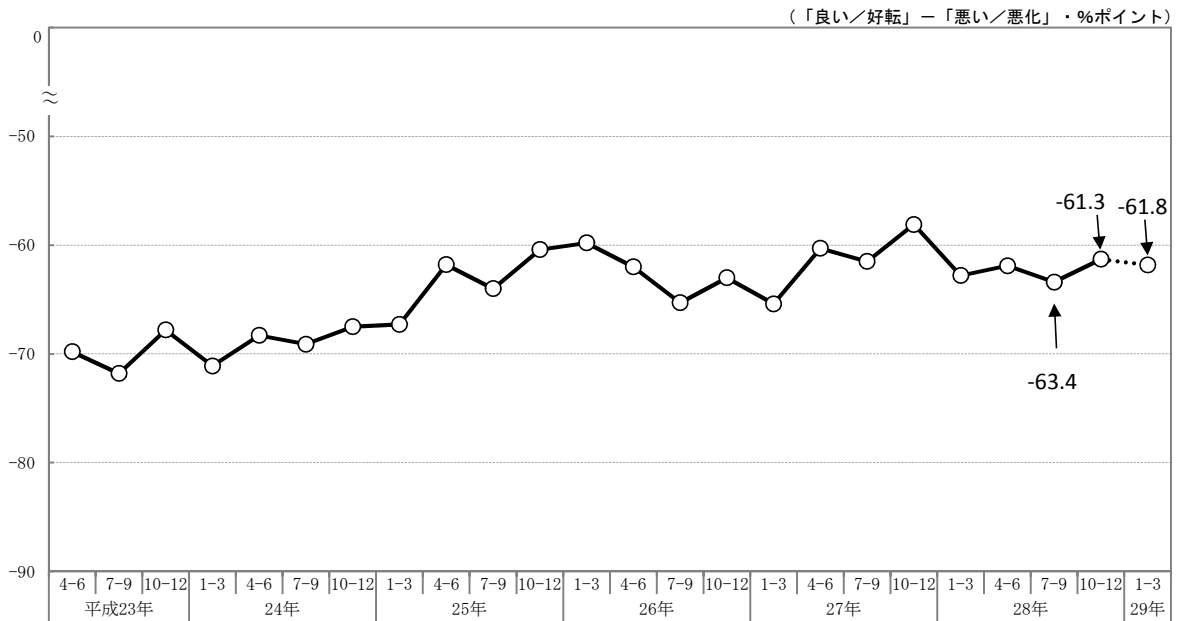


表1 業況判断の割合 — 調査産業計 —

	平成27年	28年				29年
	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期 見通し
今期の業況, 来期の業況 (%)						
良い/好転	4.2	3.6	3.4	3.1	3.4	1.9
普通/不変	33.5	30.1	31.3	30.4	31.9	34.4
悪い/悪化	62.3	66.4	65.3	66.5	64.7	63.7
D I	-58.1	-62.8	-61.9	-63.4	-61.3	-61.8

参考	日銀短観(大企業全産業計)	18	13	12	12	14	13
	中小企業景況調査(全産業計)	-22.9	-29.0	-27.0	-27.0	-26.9	-13.0

(注) 「中小企業景況調査」：(独)中小企業基盤整備機構作成

(注) 今期の調査票回収時期は、平成29年1月上旬から中旬までである。

2 今期の売上高及び営業利益

① 今期の1事業所当たりの売上高は、	
□「製造業」は	255万8000円で、前年同期に比べ、7.5%の増加
□「卸売業、小売業」は	382万1000円で、前年同期に比べ、6.0%の減少
□「宿泊業、飲食サービス業」は	212万円で、前年同期に比べ、8.3%の減少
□「サービス業」は	120万円で、前年同期に比べ、6.6%の減少
② 今期の1事業所当たりの営業利益は、	
□「製造業」は	68万8000円で、前年同期に比べ、6.8%の増加
□「卸売業、小売業」は	40万5000円で、前年同期に比べ、16.3%の減少
□「宿泊業、飲食サービス業」は	38万7000円で、前年同期に比べ、17.7%の減少
□「サービス業」は	42万7000円で、前年同期に比べ、9.3%の減少

※前年同期(平成27年10～12月期)

表2 産業別売上高及び営業利益

		製造業		卸売業、小売業		宿泊業、飲食サービス業		サービス業	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
実数 (千円)	平成26年 10～12月期	2,444	658	4,384	511	2,150	422	1,301	480
	平成27年 1～3月期	2,182	595	3,601	394	2,042	373	1,227	395
	4～6月期	2,466	673	3,729	428	2,148	365	1,327	469
	7～9月期	2,310	675	3,609	366	2,203	368	1,215	446
	10～12月期	2,379	644	4,065	484	2,312	470	1,285	471
	平成28年 1～3月期	2,293	685	3,566	353	2,253	418	1,134	379
	4～6月期	2,165	613	3,659	330	2,084	366	1,156	421
	7～9月期	2,092	580	3,638	388	2,107	418	1,139	427
10～12月期	2,558	688	3,821	405	2,120	387	1,200	427	
前年同期比 (%)	平成26年 10～12月期	-1.2	-2.7	0.2	15.9	-4.4	3.9	2.1	7.1
	平成27年 1～3月期	-4.8	-9.0	-10.1	-14.9	1.2	9.4	11.3	12.2
	4～6月期	15.7	9.8	-6.3	-0.7	-0.3	-9.2	9.7	2.9
	7～9月期	-0.2	7.8	-13.0	-1.1	1.6	-12.4	-1.2	3.0
	10～12月期	-2.7	-2.1	-7.3	-5.3	7.5	11.4	-1.2	-1.9
	平成28年 1～3月期	5.1	15.1	-1.0	-10.4	10.3	12.1	-7.6	-4.1
	4～6月期	-12.2	-8.9	-1.9	-22.9	-3.0	0.3	-12.9	-10.2
	7～9月期	-9.4	-14.1	0.8	6.0	-4.4	13.6	-6.3	-4.3
10～12月期	7.5	6.8	-6.0	-16.3	-8.3	-17.7	-6.6	-9.3	

3 今期の設備投資額

① 今期の1事業所当たりの設備投資額は、	
□「製造業」は	6万4000円で、前年同期(9万3000円)に比べ、減少
□「卸売業、小売業」は	9万3000円で、前年同期(8万1000円)に比べ、増加
□「宿泊業、飲食サービス業」は	8万4000円で、前年同期(6万2000円)に比べ、増加
□「サービス業」は	4万7000円で、前年同期(7万1000円)に比べ、減少
② 今期の1事業所当たりの設備投資率(売上高に対する設備投資額の割合)は、	
□「製造業」は	2.5%で、前年同期(3.9%)に比べ、1.4ポイントの低下
□「卸売業、小売業」は	2.4%で、前年同期(2.0%)に比べ、0.4ポイントの上昇
□「宿泊業、飲食サービス業」は	4.0%で、前年同期(2.7%)に比べ、1.3ポイントの上昇
□「サービス業」は	3.9%で、前年同期(5.5%)に比べ、1.6ポイントの低下

※前年同期(平成27年10～12月期)

表3 産業別設備投資額及び設備投資率

		製造業		卸売業、小売業		宿泊業、飲食サービス業		サービス業		
		設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	
平成26年	10～12月期	78	3.2	89	2.0	118	5.5	43	3.3	
	平成27年	1～3月期	111	5.1	109	3.0	47	2.3	37	3.0
		4～6月期	148	6.0	79	2.1	82	3.8	47	3.5
		7～9月期	135	5.8	86	2.4	159	7.2	57	4.7
平成28年	10～12月期	93	3.9	81	2.0	62	2.7	71	5.5	
	1～3月期	70	3.1	53	1.5	55	2.4	72	6.3	
	4～6月期	53	2.4	74	2.0	66	3.2	50	4.3	
	7～9月期	169	8.1	56	1.5	177	8.4	36	3.2	
10～12月期	64	2.5	93	2.4	84	4.0	47	3.9		

Ⅱ 業況判断

1 調査産業計

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成28年10～12月期）の業況判断D Iは（-）61.3 で、前期（平成28年7～9月期）（-63.4）に比べ、2.1ポイント改善した。

イ 前期と比較した業況判断D Iは（-）45.0 で、前期（-50.9）に比べ、5.9ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成27年10～12月期）と比較した業況判断D Iは（-）55.1 で、前期（-55.6）に比べ、0.5ポイント改善した。

② 来期の業況見通し

来期（平成29年1～3月期）の業況見通しD Iは（-）61.8 で、今期の業況判断（-61.3）に比べ、0.5ポイントの悪化の見通しとなっている。

図2 業況判断D Iの推移 —調査産業計—

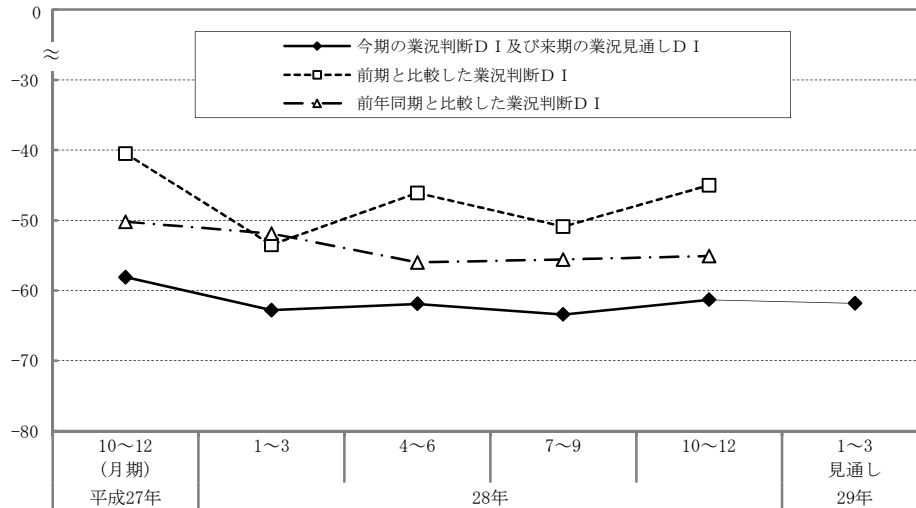
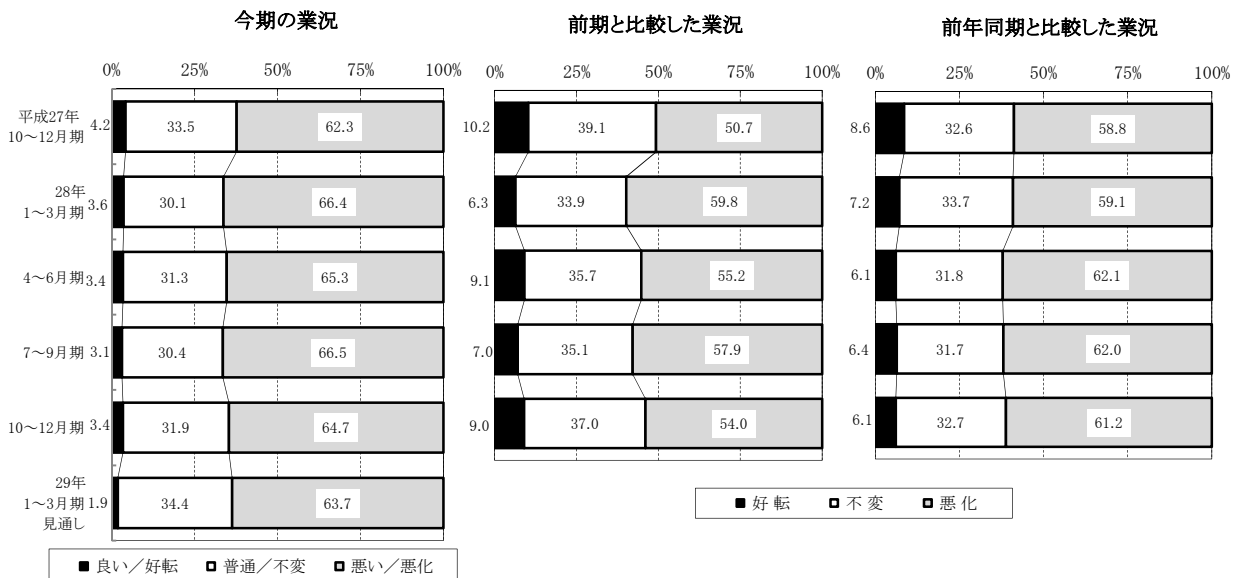


図3 業況判断の割合 —調査産業計—



(2) 売上の状況

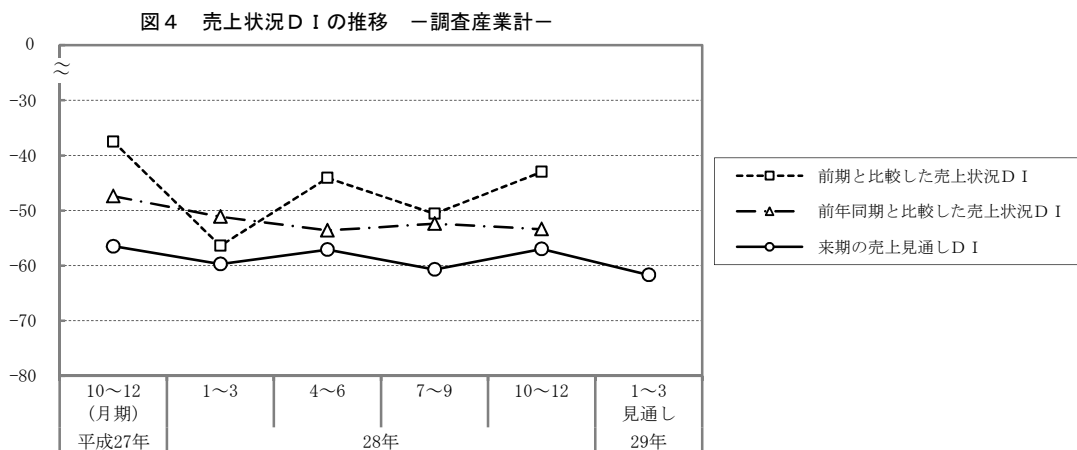
① 今期の売上の状況

ア 前期と比較した売上状況DIは (-)43.0 で、前期 (-50.6) に比べ、7.6 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは (-)53.4 で、前期 (-52.4) に比べ、1.0 ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは (-)61.7 で、前期における今期の売上見通し (-57.0) に比べ、4.7 ポイントの悪化の見通しとなっている。



(3) 営業利益の状況

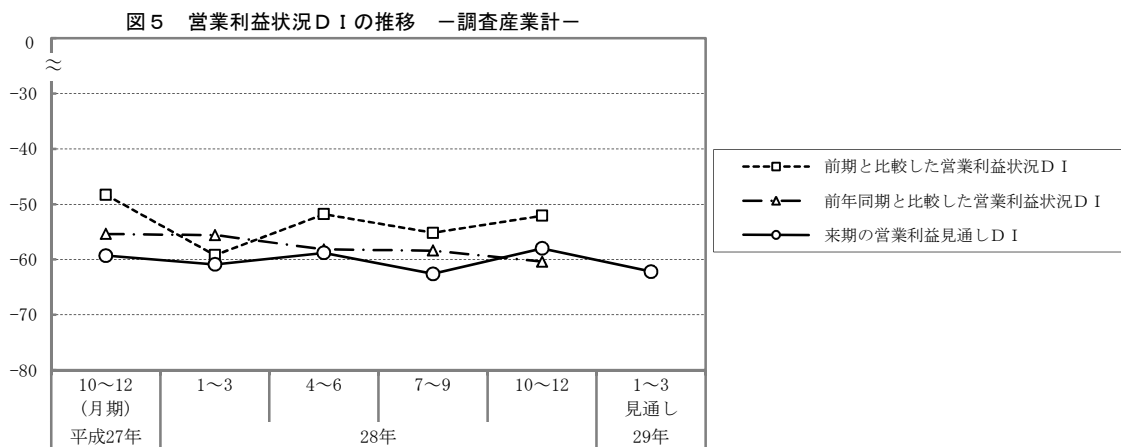
① 今期の営業利益の状況

ア 前期と比較した営業利益状況DIは (-)52.1 で、前期 (-55.2) に比べ、3.1 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは (-)60.4 で、前期 (-58.4) に比べ、2.0 ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

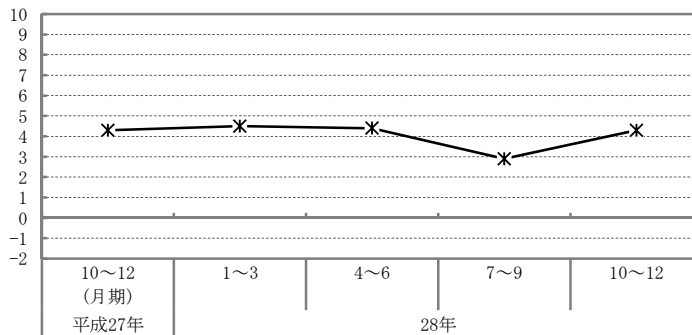
来期の営業利益見通しDIは (-)62.2 で、前期における今期の営業利益見通し (-58.0) に比べ、4.2 ポイントの悪化の見通しとなっている。



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)4.3 で、前期 (+2.9) に比べ、1.4 ポイント「過剰」が拡大した。

図6 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -調査産業計-

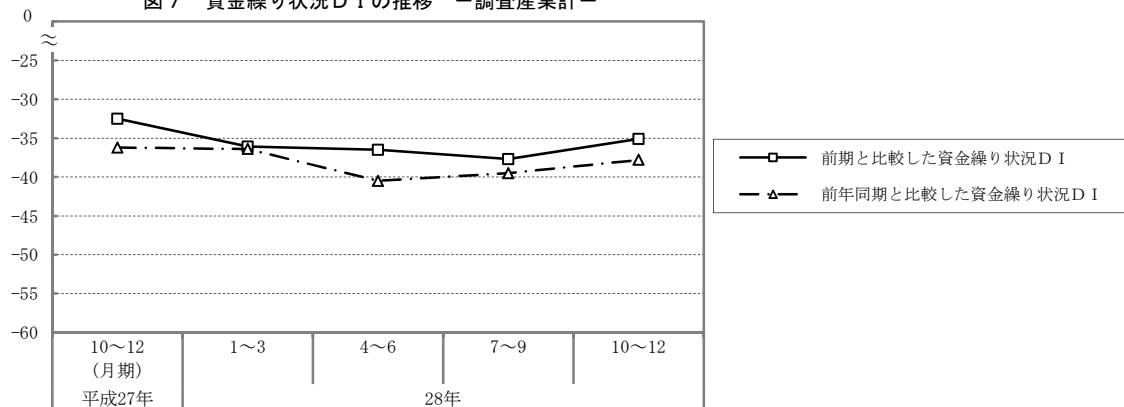


(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)35.1 で、前期 (-37.7) に比べ、2.6 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)37.8 で、前期 (-39.5) に比べ、1.7 ポイント改善した。

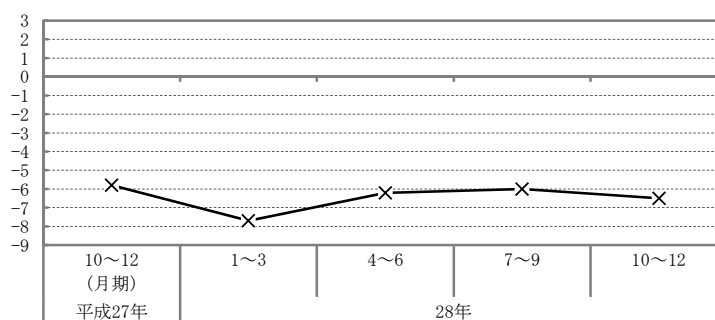
図7 資金繰り状況DIの推移 -調査産業計-



(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)6.5 で、前期 (-6.0) に比べ、0.5 ポイント「不足」が拡大した。

図8 雇用状況DIの推移 -調査産業計-



2 製造業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成28年10～12月期）の業況判断DIは（-）53.8で、前期（平成28年7～9月期）（-59.5）に比べ、5.7ポイント改善した。

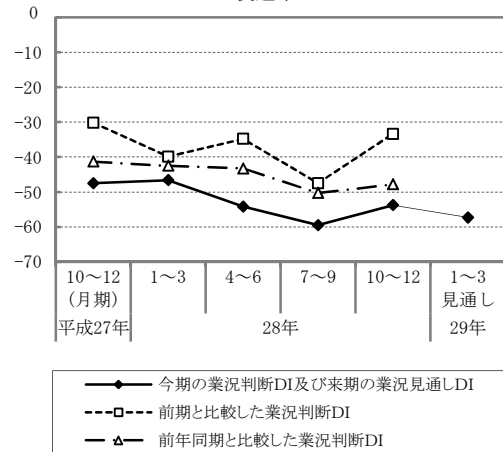
イ 前期と比較した業況判断DIは（-）33.4で、前期（-47.5）に比べ、14.1ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成27年10～12月期）と比較した業況判断DIは（-）47.8で、前期（-50.3）に比べ、2.5ポイント改善した。

② 来期の業況見通し

来期（平成29年1～3月期）の業況見通しDIは（-）57.3で、今期の業況判断（-53.8）から、3.5ポイントの悪化の見通しとなっている。

図9 業況判断DIの推移
—製造業—



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

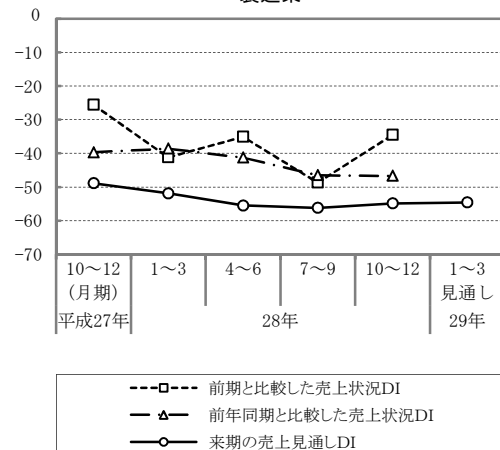
ア 前期と比較した売上状況DIは（-）34.5で、前期（-48.7）に比べ、14.2ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは（-）46.7で、前期（-46.5）に比べ、0.2ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは（-）54.6で、前期における今期の売上見通し（-54.9）から、0.3ポイントの改善の見通しとなっている。

図10 売上状況DIの推移
—製造業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

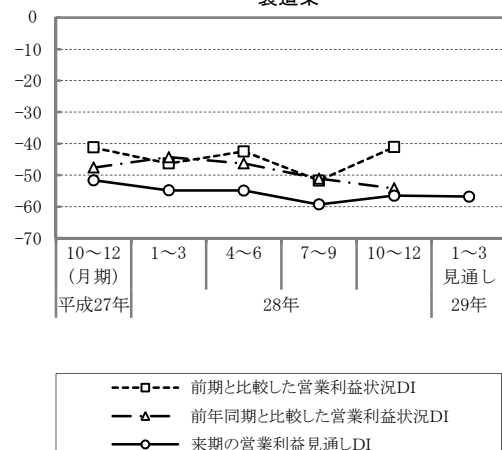
ア 前期と比較した営業利益状況DIは（-）41.1で、前期（-51.7）に比べ、10.6ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは（-）54.2で、前期（-51.1）に比べ、3.1ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは（-）56.8で、前期における今期の営業利益見通し（-56.5）に比べ、0.3ポイントの悪化の見通しとなっている。

図11 営業利益状況DIの推移
—製造業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)2.9 で、前期 (+3.0) に比べ、0.1 ポイント「過剰」が縮小した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)29.7 で、前期 (-32.2) に比べ、2.5 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)32.2 で、前期 (-34.3) に比べ、2.1 ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)5.1 で、前期 (-3.6) に比べ、1.5 ポイント「不足」が拡大した。

図12 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -製造業-

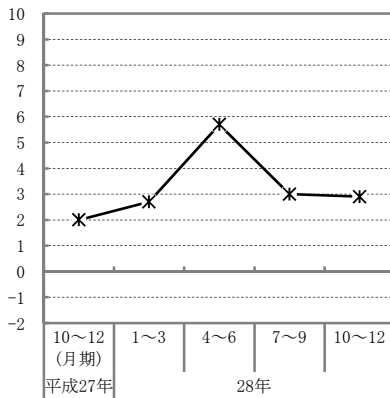


図13 資金繰り状況DIの推移 -製造業-

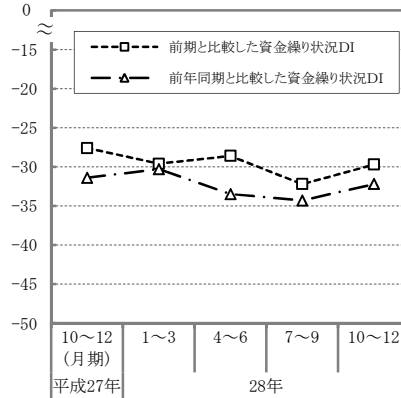
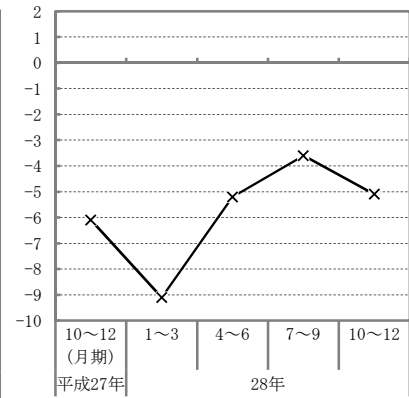


図14 雇用状況DIの推移 -製造業-



3 卸売業, 小売業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期 (平成28年10~12月期) の業況判断DIは (-)62.6 で、前期 (平成28年7~9月期) (-64.8) に比べ、2.2 ポイント改善した。

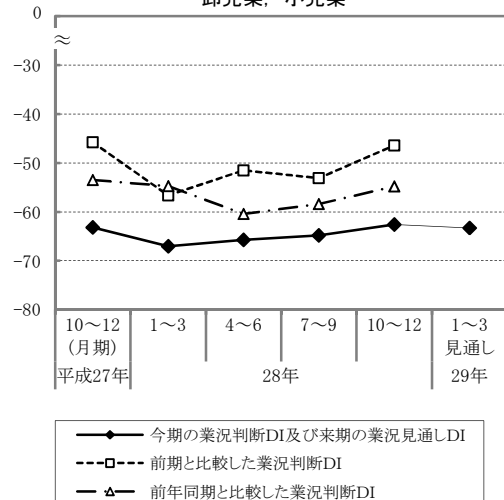
イ 前期と比較した業況判断DIは (-)46.4 で、前期 (-53.1) に比べ、6.7 ポイント改善した。

ウ 前年同期 (平成27年10~12月期) と比較した業況判断DIは (-)54.8 で、前期 (-58.4) に比べ、3.6 ポイント改善した。

② 来期の業況見通し

来期 (平成29年1~3月期) の業況見通しDIは (-)63.3 で、今期の業況判断 (-62.6) に比べ、0.7 ポイントの悪化の見通しとなっている。

図15 業況判断DIの推移 -卸売業, 小売業-



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

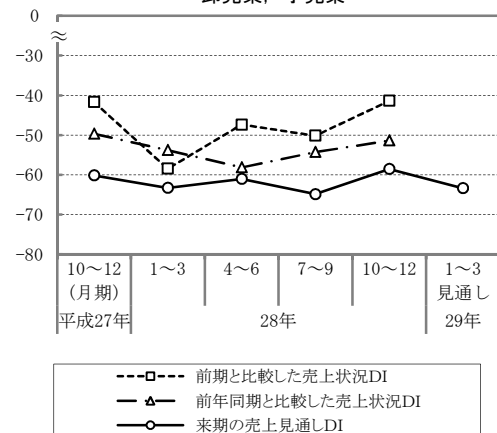
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)41.4で、前期(-50.2)に比べ、8.8ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)51.4で、前期(-54.3)に比べ、2.9ポイント改善した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)63.4で、前期における今期の売上見通し(-58.6)に比べ、4.8ポイントの悪化の見通しとなっている。

図16 売上状況DIの推移
—卸売業、小売業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

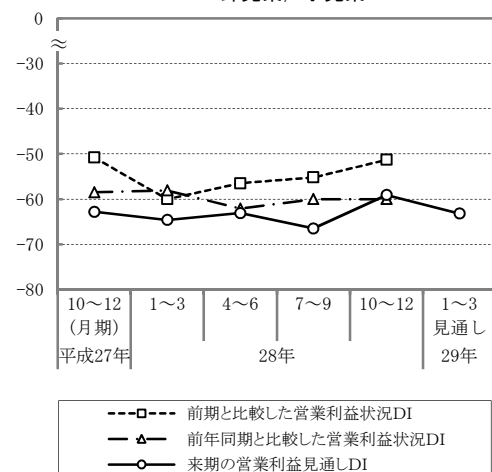
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)51.3で、前期(-55.2)に比べ、3.9ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)60.0で、前期(-60.0)から横ばいとなった。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)63.2で、前期における今期の営業利益見通し(-59.1)に比べ、4.1ポイントの悪化の見通しとなっている。

図17 営業利益状況DIの推移
—卸売業、小売業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは(+)6.3で、前期(+4.5)に比べ、1.8ポイント「過剰」が拡大した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは(-)33.2で、前期(-38.6)に比べ、5.4ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは(-)35.7で、前期(-39.6)に比べ、3.9ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは(-)5.0で、前期(-5.5)に比べ、0.5ポイント「不足」が縮小した。

図18 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -卸売業、小売業-

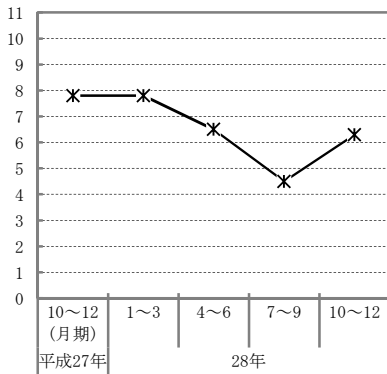


図19 資金繰り状況DIの推移 -卸売業、小売業-

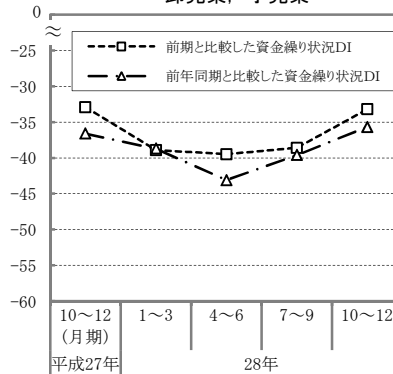
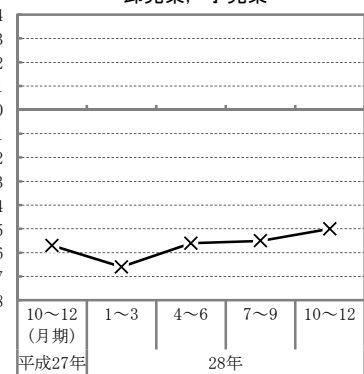


図20 雇用状況DIの推移 -卸売業、小売業-



4 宿泊業、飲食サービス業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成28年10~12月期）の業況判断DIは(-)60.4で、前期（平成28年7~9月期）(-59.2)に比べ、1.2ポイント悪化した。

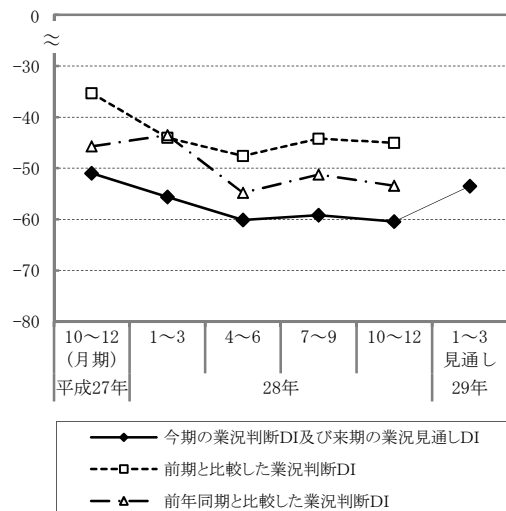
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)45.0で、前期(-44.2)に比べ、0.8ポイント悪化した。

ウ 前年同期（平成27年10~12月期）と比較した業況判断DIは(-)53.4で、前期(-51.2)に比べ、2.2ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（平成29年1~3月期）の業況見通しDIは(-)53.5で、今期の業況判断(-60.4)に比べ、6.9ポイントの改善の見通しとなっている。

図21 業況判断DIの推移 -宿泊業、飲食サービス業-



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

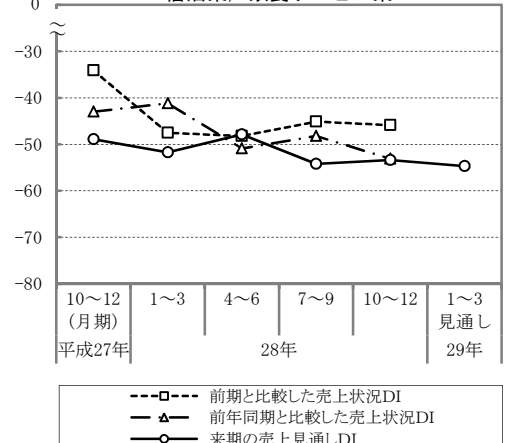
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)45.9で、前期(-45.1)に比べ、0.8ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)53.1で、前期(-48.2)に比べ、4.9ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)54.7で、前期における今期の売上見通し(-53.4)に比べ、1.3ポイントの悪化の見通しとなっている。

図22 売上状況DIの推移 -宿泊業、飲食サービス業-



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

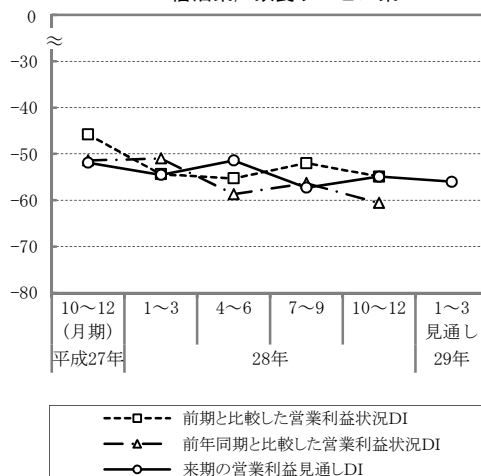
ア 前期と比較した営業利益状況DIは (-)54.9 で、前期 (-52.0) に比べ、2.9 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは (-)60.6 で、前期 (-56.3) に比べ、4.3 ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは (-)56.0 で、前期における今期の営業利益見通し (-54.9) に比べ、1.1 ポイントの悪化の見通しとなっている。

図23 営業利益状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)2.4 で、前期 (-0.6) に比べ、3.0 ポイント「過剰」が拡大した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)39.4 で、前期 (-39.3) に比べ、0.1 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)42.1 で、前期 (-42.6) に比べ、0.5 ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)11.4 で、前期 (-7.1) に比べ、4.3ポイント「不足」が拡大した。

図24 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—

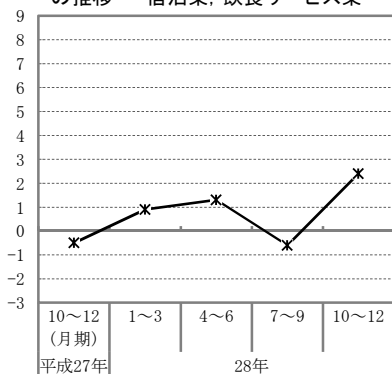


図25 資金繰り状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—

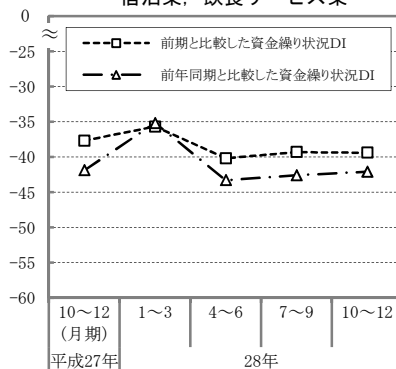
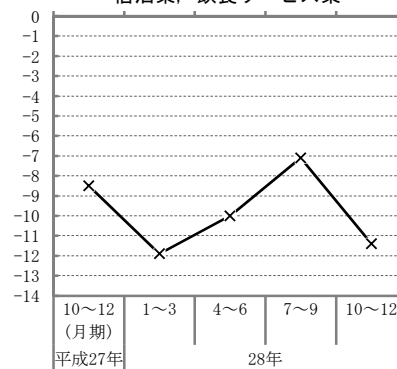


図26 雇用状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—



5 サービス業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成28年10～12月期）の業況判断DIは(-)63.3で、前期（平成28年7～9月期）(-66.5)に比べ、3.2ポイント改善した。

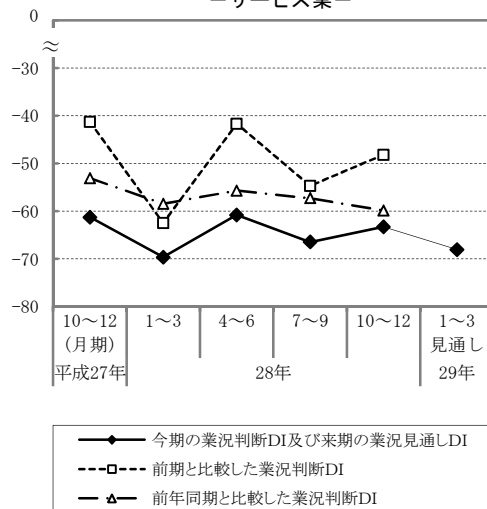
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)48.2で、前期(-54.7)に比べ、6.5ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成27年10～12月期）と比較した業況判断DIは(-)59.9で、前期(-57.3)に比べ、2.6ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（平成29年1～3月期）の業況見通しDIは(-)68.1で、今期の業況判断(-63.3)に比べ、4.8ポイントの悪化の見通しとなっている。

図27 業況判断DIの推移
—サービス業—



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

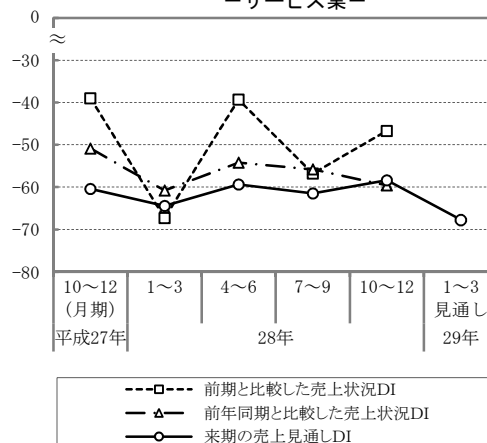
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)46.7で、前期(-56.8)に比べ、10.1ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)59.6で、前期(-55.8)に比べ、3.8ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)67.8で、前期における今期の売上見通し(-58.4)に比べ、9.4ポイントの悪化の見通しとなっている。

図28 売上状況DIの推移
—サービス業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

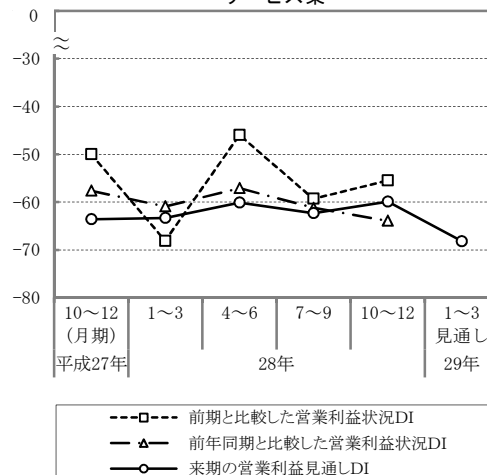
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)55.5で、前期(-59.3)に比べ、3.8ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)63.9で、前期(-61.2)に比べ、2.7ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)68.2で、前期における今期の営業利益見通し(-59.9)に比べ、8.3ポイントの悪化の見通しとなっている。

図29 営業利益状況DIの推移
—サービス業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは(+) 3.1 で、前期(+ 3.3)に比べ、 0.2 ポイント「過剰」が縮小した。

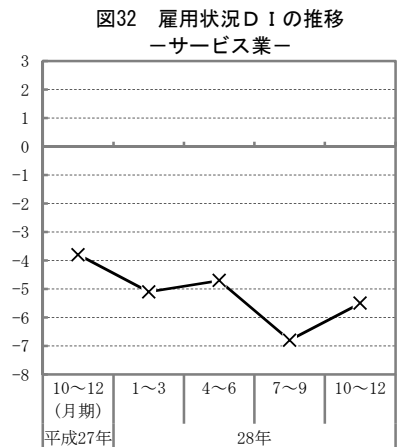
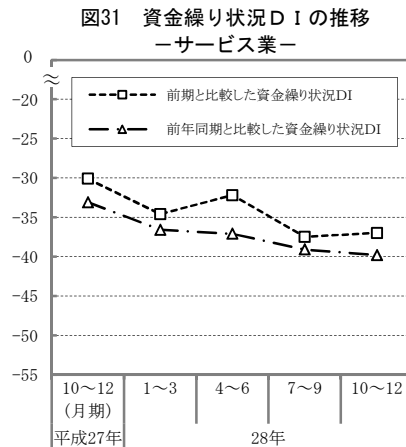
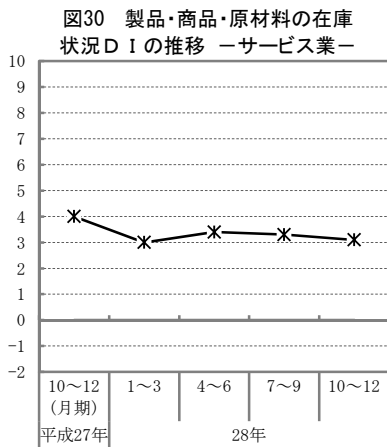
(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは(-) 37.0 で、前期(- 37.5)に比べ、 0.5 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは(-) 39.8 で、前期(- 39.1)に比べ、 0.7 ポイント悪化した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは(-) 5.5 で、前期(- 6.8)に比べ、 1.3 ポイント「不足」が縮小した。



Ⅲ 営業収支

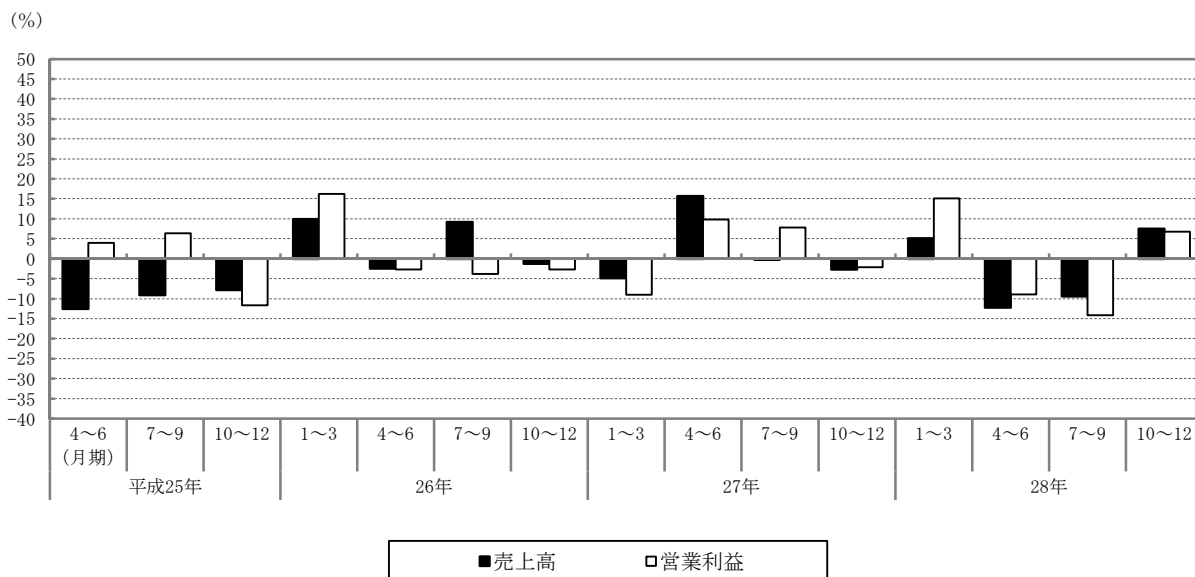
1 製造業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は255万8000円で、これに対する費用は売上原価が89万4000円、営業費が97万7000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は68万8000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 7.5% で、3期ぶりに増加した。また、営業利益は(+) 6.8% で、3期ぶりに増加した。

図33 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 —製造業—

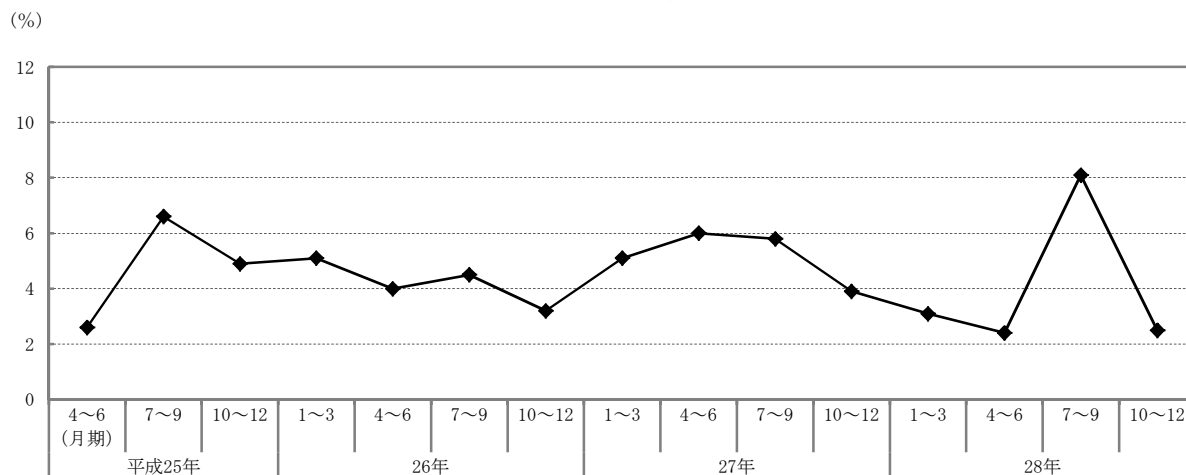


(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は6万4000円で、前年同期(9万3000円)を下回った。

また、設備投資率(売上高に対する設備投資額の割合)は 2.5% で、前年同期(3.9%)を1.4ポイント下回った。

図34 設備投資率の推移 —製造業—



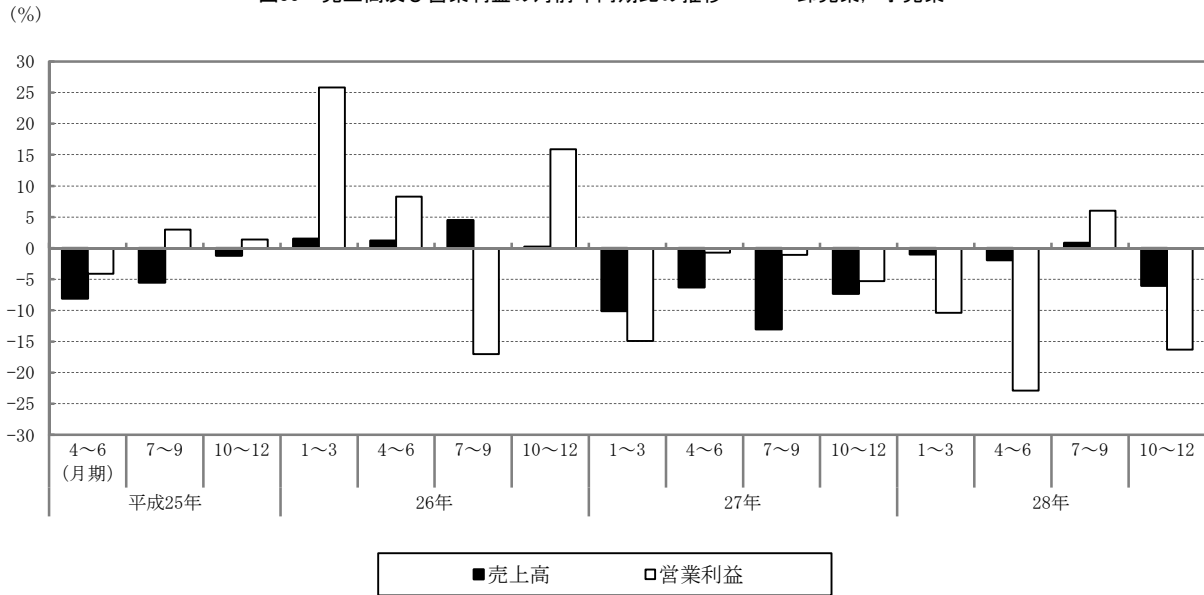
2 卸売業、小売業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は382万1000円で、これに対する費用は売上原価が258万9000円、営業費が82万6000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は40万5000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(-)6.0%で、2期ぶりに減少した。また、営業利益は(-)16.3%で、2期ぶりに減少した。

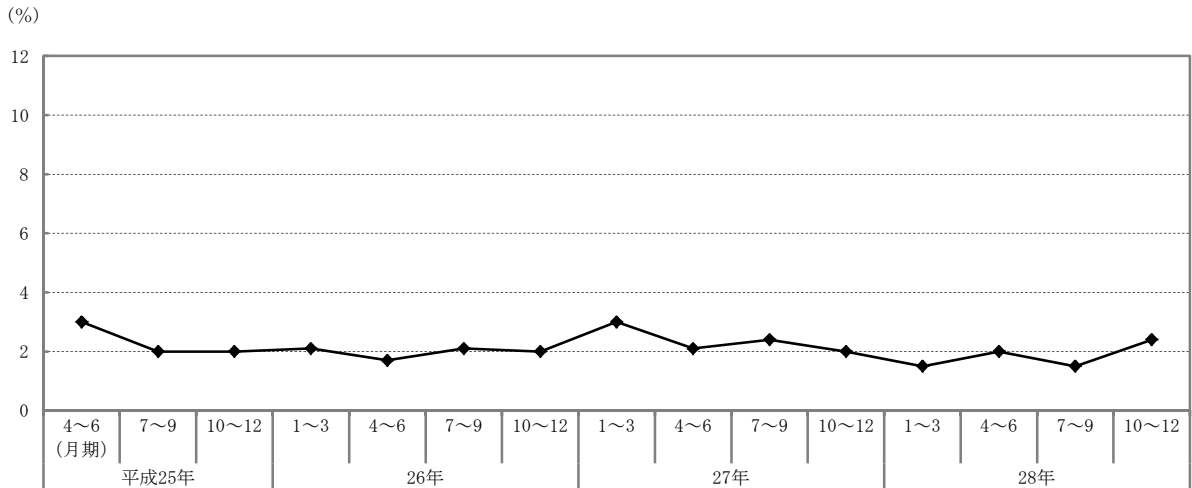
図35 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 ー卸売業、小売業ー



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は9万3000円で、前年同期(8万1000円)を上回った。また、設備投資率は2.4%で、前年同期(2.0%)を0.4ポイント上回った。

図36 設備投資率の推移 ー卸売業、小売業ー

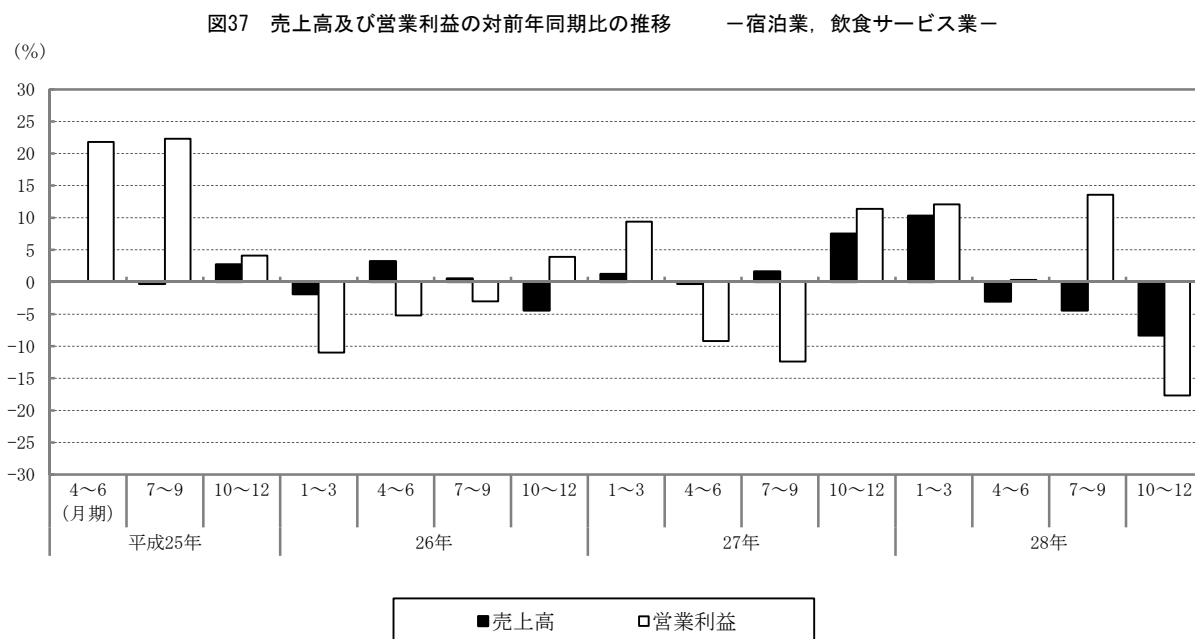


3 宿泊業，飲食サービス業

(1) 売上高及び営業利益

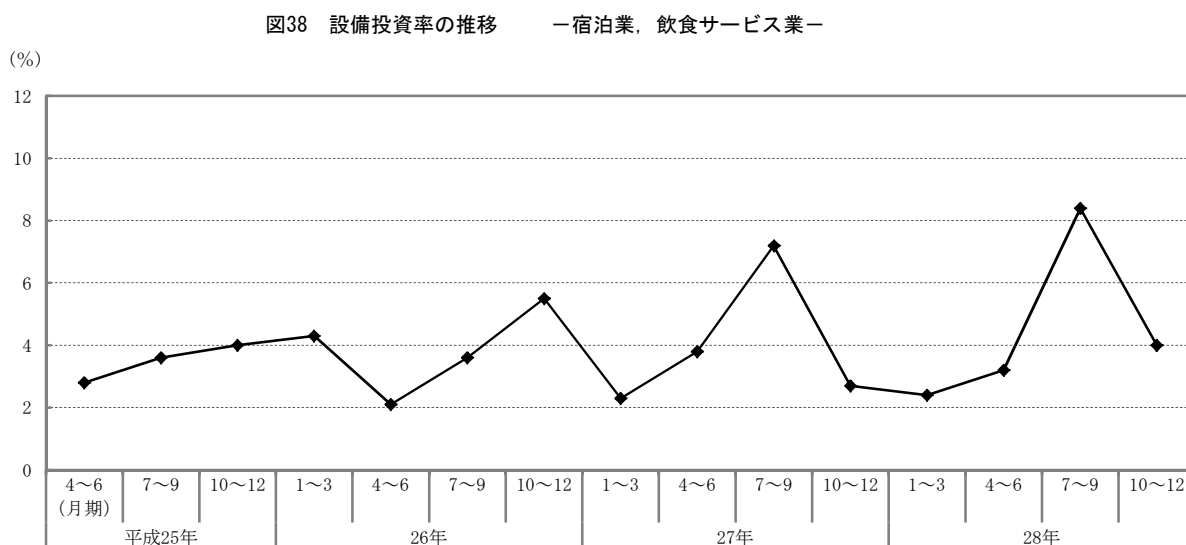
今期の1事業所当たりの売上高は212万円 で、これに対する費用は売上原価が90万1000円、営業費が83万3000円 となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は38万7000円 となった。

対前年同期比をみると、売上高は(-)8.3%で、3期連続で減少した。また、営業利益は(-)17.7% で、5期ぶりに減少した。



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は8万4000円 で、前年同期(6万2000円)を上回った。また、設備投資率は4.0% で、前年同期(2.7%)を1.3ポイント上回った。



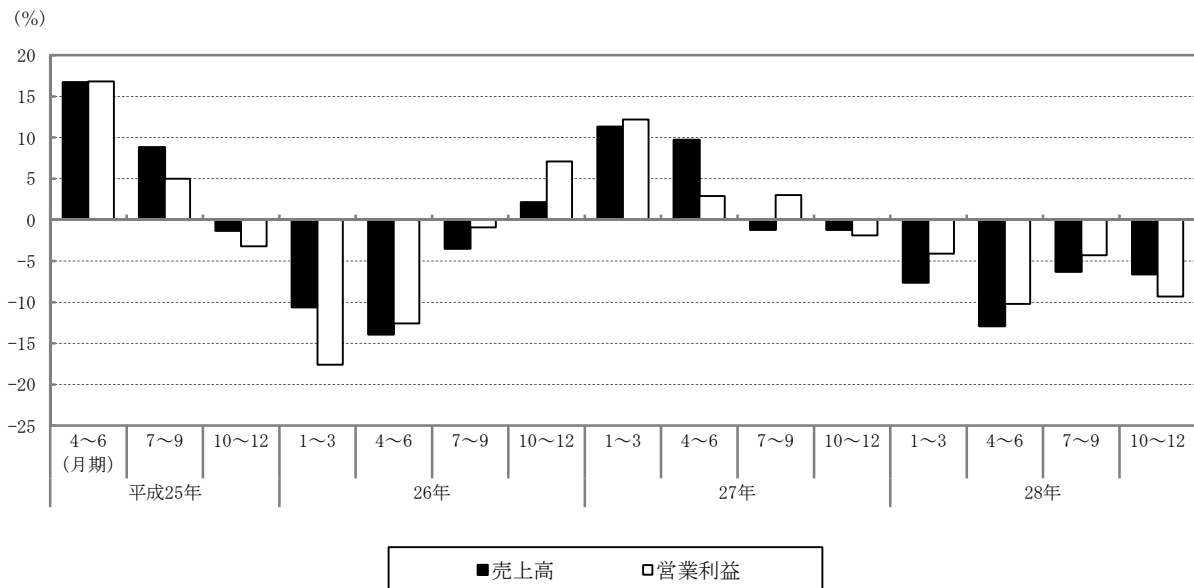
4 サービス業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は120万円 で、これに対する費用は売上原価が21万7000円、営業費が55万6000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は42万7000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(-)6.6%で、6期連続で減少した。また、営業利益は(-)9.3%で、5期連続で減少した。

図39 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 -サービス業-



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は4万7000円 で、前年同期(7万1000円)を下回った。また、設備投資率は3.9%で、前年同期(5.5%)を1.6ポイント下回った。

図40 設備投資率の推移 -サービス業-

